

(発達支援ルームくじらぐも はあと)5領域支援プログラム

作成年月日 (R8年 1月 27日)

法人理念		一人一人の強みを生かし、弱みに工夫を施し、子供や家族の「将来の希望」を生み出す		
支援方針		協力・応援・提案を共に考え子ども理解のための「気づき」を生み出す		
営業時間		8:30~17:30	送迎有無	無し
		支援内容		
本人支援	健康・生活	○体温測定、手指消毒、衣類着脱の自立 ○脳も含めた代謝の促進(発汗、睡眠、便通、食欲)		
	運動・感覚	遊びや活動を通して感覚統合療法的視点を取り入れた支援の提供 ○四つ這いなど色々な動きの中で運動能力の向上を図る ○遊びを通して感覚の成長を促し、感じ方の調整を図る(過敏・鈍感・動きの不器用さ・落ち着きがない)		
	認知・行動	遊びや活動を通して感覚統合療法的視点を取り入れた支援の提供 ○「遊び」からの感覚入力や家庭生活へのアプローチを通して、物事の理解や指示理解につながる脳の形成を共に目指す ○「遊び」からの感覚入力や家庭 生活へのアプローチを通して、行動の安定へとつなげる		
	言語 コミュニケーション	○名称理解から概念形成の獲得 ○発達段階に合わせた『やりとり』にてコミュニケーションの向上へ		
	人間関係 社会性	○遊びの段階を調整して発達を促す(愛着形成／感覚遊び／模倣遊び／ごっこ遊び) ○発達状況に合わせて2～5人の小集団セッションの提供(協同遊び／ルール遊び)		
家族支援		○支援計画書を「共同作成」し、「いま必要な支援」を明確にする (情報共有・共通理解) ○成長の土台作りのための学ぶ場の提供「家庭生活の中で取り組むこと」 ○発達段階に合わせた『やりとり』にてコミュニケーションの向上へ (発達段階を知り関わり方を学ぶ) ○視覚的情報を活かし、学びやすさや学ぶ楽しさへ(視覚情報の使い方を学ぶ)		
移行支援		○園生活や就学に向けた情報共有を行う		
地域支援・連携		○地域父母の会等との連携、ご利用者への情報の提供		
職員の質の向上		○理念を落とし込んだセルフチェック、スキルアップシートを用いた定期的な面談 ○年間スケジュールを用いた社内の研修実施 ○社外研修へも積極的に参加する		

主な行事等	○横のつながりを作るための保護者茶話会イベント ○味噌づくりなど、食生活の大切さを知るイベント
-------	--